



第1482回例会 会報

幹事 若生恒吉
 会長 市川輝雄
 クラブ奉仕 佐藤 昇

出席報告：会員 83名 出席 54名

ロータリーに活力を—
 あなたの活力を
 PUT LIFE INTO ROTARY—
 YOUR LIFE

1988 (昭 63.11.8) 天候 晴

職業奉仕 佐藤 衛 社会奉仕 迎田 稔
 国際奉仕 松田士郎 青少年奉仕 碓水節雄

出席率 67.65% 前回出席率 72.06%
 修正出席 64名 確定出席率 82.35%

会長報告

市川輝雄君

- 木枯（こがらし）という言葉があります。11月前後に吹き、木の葉を落し枯木にしてしまう強い風のことであります。すでに昨日は立冬、今年は雪が早いと聞いています。健康には充分ご留意下さい。
- 今日8日は愈々強いアメリカへの願いをこめた大統領選挙の投票日です。デューカキス民主かブッシュ共和か、プレジデントが変ればプレーンは元より、ホワイトハウスのスタッフからコックの果てまで大異動するそうですが、何よりも日本の産業経済に及ぼす政策の影響が関心事であります。今晚のテレビニュースにご注目下さい。
- 教えられてエビスヤさんより、出たばかりの「墨」というグラフ誌の西郷南洲特集号を求めました。南洲の墨蹟を中心に年表や多くのエッセイが、読み易くちりばめられていて、寸暇の疲れ休めに、又、南洲を理解するのに好適の本であります。巻頭言にこう書いてあります。「西郷隆盛ゆかり

の地といえば誰もがまず鹿児島を挙げる。生誕、終焉の場所であり、また温暖な南国気候や桜島は明治以来、人々に圧倒的人気のあった「西郷さん」のイメージにピッタリ重なる。しかし西郷の遺墨に関しては、その真筆の多くが、いま山形県の庄内地方に残っている。本特集では西郷と庄内の関わりを見据え、その巨大な人物像と雄渾な書蹟の数かずを紹介する。」とあります。

この本を読むまでは、うかつにも単なる有名人の手すさび位にしか思っていなかったのですが、これほど書をよくし、漢詩に秀でた人とは知りませんでした。元来、藩の書役として文筆に長じていたのですが、藩主島津久光の怒りにふれ、沖永良部島に2年余り遠島流刑された時、同じ流罪人の書家川口雪蓬より本格的に書と漢詩を習ったのであります。灯火親しむの候、認識を新たにす上でも、ぜひこの本にご注目下さい。

幹事報告

若生恒吉君

1. 来週の15日の例会は国際奉仕委員会のフォーラ

ロータリアン日記 ○月○日

鶴岡R.Cの人達が全員ある会場に集まって、会長を中心に鳥海山のふもとに出来た、すばらしい都市の完成を祝して今までの苦労話に花を咲かせている。空港を中心に壮大な官庁街、日本海にそって伸びる工業団地、その日本海にはすばらしい海底公園、きれいに区画整理された田園風景、その中に点在する商店街、御団地、公園、各種医療機関、そして住宅街、鳥海山のすそ野に広がるゴルフ場、スキー場を始めとする総合レジャーランド、そのそばには特別老人福祉総合センターが、

各業種のロータリアンがそれぞれの経験と知恵と行動力を結集し、構想・計画に3年、それを実行に移して5年間、今改めてこの会場から外の壮大ながめを見て、大声で笑う人、声をつまらせている人、目をうるませている人、会場の明りが急に暗くなり、スポットライトがある1点を照し、この度の功労者の人達一人ひとりに感謝状が……「あなた6時半ですよ、会社に遅れますよ」いつもの妻の声で目がさめました。昭和63年○月○日の「夢」でした。が？ 現実に鶴岡R.Cの人達がこの庄内の10年先を考え構想をねりあげれば、すばらしいことができると信じます。 阿部 貢

ムの為昼食を、12時で会食される様にしております。12時45分まで例会のセレモニーを終了致します。

2. 会報到着 酒田東R.C、鶴岡西R.C、
鹿兒島西R.C
3. 今日、例会終了後臨時理事会をこの場で開催します。米山燮学会委員の方々と塚原初男君

4. 今日8日、6時30分より30周年記念行事実行委員会が中国飯店で開催されますので、各委員長又は代理の方に御案内が出ておりますので、忘れずに出席して下さい。

5. 会報送付礼状が253地区パストガバナー田中善六君より届いています。

ゲストスピーチ

川 と 地 域

建設省東北地方建設局
月山ダム工事事務所長

尾 形 悦 男 氏



日本の国土は美しい緑に恵まれていますが、これは年間1,750mmという豊富な降雨のおかげです。これは世界の平均値の倍にあたります。しかし、これも1人当たりで換算すると世界平均の約6分の1しかありません。

また、日本の河川は小さく、降雨が台風期や梅雨期に集中するために、流量の変動が大きく、安定して利用するのが大変難しく、さらに災害にも悩まされてきたわけです。

川も、いろいろな表情があるわけですが、まず水をつかう方から見てみます。川の利用は、もともと農業用水から始まったわけですが、江戸時代に盛んになった新規開田によって、極限の渇水流量ぎりぎりまで利用つくされてきたのが実態です。ちなみに、江戸中期から現在まで、耕地面積で2倍、人口で3倍も増えています。そのため、ひと度渇水になると水争いが頻発したことが記録に残っています。

明治になって旧河川法ができ、水の利用についても規定されましたが、当初は、現実には、水の利用・配分は、農民、正確には地主の手に委ねられていました。その後、水力発電が始まり、また上水道や工業用水が河川に依存する方向が急速に強まり、農業用水とのあいだで各地で様々な調整がおこなわれました。このような状況のなかで、1930年代になる

とアメリカのTVA計画に影響され、日本でも水資源開発が行政の重要課題となり、多目的ダムが建設されるようになりました。

戦後、農地開放により、農業用水も大きく変化していきます。昭和24年に土地改良法ができると、国営事業により取水の合口化が進み、国が管理に強く関与してくるようになります。さらに、戦後の食糧増産対策の時代が終ると、農民の組織である土地改良区も、その運営は農業者ではなく、それを職業とするテクノクラートがリードする時代を迎えます。また、1950年代は、国土総合開発法、電源開発促進法、工業用水法、水道法、特定多目的ダム法といった、利水にとって重要な法律が目白押しにつくられました。その仕上げが昭和39年制定の新河川法です。新河川法では重要な水系を1級水系とし、建設省の直轄管理とするとともに、河川管理者の利水に関する権限を強化しました。このような法制度の整備は、結果として日本の工業化、都市化に応えるものでもあったわけです。

ところで、建設省では今までに直轄補助合わせて約300のダムを完成させ、また300箇所です業を進めており、水資源開発に努めているところです。水資源開発の計画方法は、通常は10年に一回程度の渇水を想定し、最初にすでに使われている農業用水などの不足分を確保します。次に河川の環境を保全したり、塩水のそ上を防ぐためなどに必要な河川維持用水を加えます。最後に、水道など新規開発分を加

え、必要なダムを決めます。可能なダムの大きさから、逆に新規開発水量が決まる場合もあります。社会活動が高度化してくると、渇水に対してあまり我慢できない体質になりますから、いずれは10年に一回という安全度も見直す時期が来ると思います。

次に、現在の水利用の問題点についていくつか上げてみたいと思います。一つは、農業用水の利用形態が変わりつつあることです。かつては専業農家が多く、綿密な水管理が行なわれていましたが、片手間農業が増えるにつれ使用量が増える傾向にあるようです。極端な場合は、個別の農地に蛇口がついていることもあります。水路の整備が進み漏水量は減りますが、用水と排水が分離されると、以前の反復利用に比べて必要量も増える場合があります。また農地の中に虫食的に宅地が広がり、家庭からの排水が農業用水路に入り込み、特に冬期には用水量も減るため、新たに水質の面から維持用水を要望される場合もあります。耕地面積が減りつつある状況で、なかなか水道等に転用できないのが大きな問題です。二つめの問題として、水力発電があります。古い発電所では、水を根こそぎ取って、大幅に流域変更したり、遙か下流に引いたりしているケースがありますが、こんな場合、殆ど水の流れていない区間が生じます。昔はそれでも良かったのかも知れませんが、現在の感性には馴染まず、30年の水利権の更新時期を捉えて、川を再生すべく地元から改善を要求されるケースが増えています。三つめの問題として水質問題を上げたいと思います。昭和30年代までは、水銀やカドミウムの工場排水によるいわゆる公害が水質問題だったわけですが、昭和45年の水質汚濁防止法以来、こういった形の問題は減り、今では家庭からの排水が問題の大半を占めています。すなわち不特定多数の加害者＝被害者の図式で、総論賛成、各論反対となり、ここに解決の難しさがあります。

最後に、最も重要な治水、災害対策について述べます。われわれのダム建設の最も大きな目的は、洪水調節です。日本の耕地、都市の殆どは、河川の氾濫によって、土砂が運ばれて出来た平野にあります。したがって、一定の確率で水害をこうむるのは、い

わば宿命です。アメリカなどでは政府主導の水害保険の制度があり、氾濫区域では家を建てないなどの規制をうけたうえで、加入出来ますが、日本では他に土地がありませんから成立しません。そのため日本は、オランダとならんで世界で最も治水を重要視している国となっています。現在1級河川では、100～200年に一回の大洪水に対して安全のように、河川の改修とダムの建設を主に計画を作成し、これをもとに工事を進めています。しかし財政上の制約等があって、いつ完成するか皆目わからない、というのが本当のところですが、したがって、毎年どこかで必ずと言っていいほど大災害が起きている実態です。治水施設は道路や公園のように利便を高める施設ではなく、また日常接する機会も多くありませんから、災害が起きて初めて初めて注目されるといったことが災いしているようにも思えます。

ここで、治水に係わる話題をいくつか取り上げて締め括りとします。一つは水防意識の低下です。以前は、地域は自らの手で守る、という意識が高く、市民で構成する水防団が活躍していたわけですが、最近では全て役所任せ、問題があれば非難するばかりで、市民としての義務感が薄れてきています。こんなことが、水害訴訟のように、我々には理解しにくい状況をもたらしている一因かも知れません。状況を少しでも改善するため、建設省では数年前から水防演習の指導を始めています。二つめは大都市圏に顕著な都市型災害の増加です。もともと山林だった所が宅地化されると、雨の浸透量が減りますから、雨がそのまま川に流れ込み、また水路によって早く入ってきます。同じ量の雨でも、下流により大きな災害をもたらすことになります。ところが下流部では、すでに河幅を広げる余地がないほど都市化が進んでいますから、その対策には多大な費用と時間が必要です。また都市化が無秩序に進むとつい最近まで氾濫原だったような低地まで家が建ちます。このような土地を盛り土すると、雨のとき今までそこに溜まっていた水が川に出ってきますから、下流では小さい洪水で済んでいたものが大洪水になりますし、ポンプで排水しても同じ結果になります。このような流域では総合治水対策協議会を組織して対策を検

討していますが、住民どうしの利害が対立して、なかなか難しいようです。結論として、早く治水事業を進めてくれ、ということになりがちですが、災害を受けているのは大都市圏の人だけではありませんし、人口が増える所にばかり金を使うのは、逆に不公平になります。

まだまだお話しすべきことが多いように思いますが、今後の地域の発展を図るうえで、何か参考になる点があれば幸いです。

スマイル

小池繁治君 会長報告で「墨」の宣伝をして頂きましたので。酒井家、致道博物館等掲載の隆盛の書が、かなり鶴岡にあります。在庫切れで、ご要望があれば取りよせます。

塚原初男君 鶴岡市の都市景観形成ガイドプラン策定委員会で、委員長の大役を仰せつかりました。見回したら上野さんも一緒でした。しっかりした案を作成し、皆様のご批判を仰ぐことになると思います。宜しくお願いします。

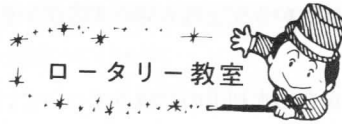
上野三郎君 塚原先生ご紹介のとおりです。宜しくお願いします。

ビジター

鶴岡西R.C 成田邦夫君

11月22日のプログラム予定

・会員スピーチ 佐藤元伸君



— 「ロータリーの友」10月号より抜粋 —

ポリオ・プラス 新テレホンカード

わが国におけるポリオ・プラス募金は、全国ロータリアンの心あたまのご協力により、24億円を超えました。その間、本計画に対するご家族や会社の方、そしてまた地域社会の皆さんへのPRを主体とし、募金への協力をお願いする手段としてテレホンカードを発行したところ、10万枚を超え、募金額も4,000万円に達しました。

このたびデザインもあらたに第2回の発行をいたします。モデルの山本富士子さんは東京原宿R.C山本文晴会員夫人です。2枚1組2,000円、内600円がきょ金となります。また事務手続を簡素化し、各クラブよりの送金がありましたら、その月末に募金統計に組み入れることといたしますので、各クラブの実績に直ちに反映いたします。

皆様の絶大なご協力をお願いいたします。(詳細は各クラブ宛に送付いたします。申込書をご参照下さい)

MEMBER'S CORNER

“昭和 二万日の全記録”

講談社刊 全18巻 別巻1 各巻¥2,400
明春発売 予約受付中

エビスヤ書店

本店 鶴岡銀座通り TEL(24) 1500
大塚町店 七号線家具ダイワ内 TEL(24) 3021

低金利時代に
高利回りの投資信託で
豊かさを!

荘内証券

鶴岡支店 取締役支店長 高田 耕助

鶴岡市本町一丁目5番28号 TEL(24) 2100

ポリオプラスを成功させよう 世界社会奉仕委員会
ポリオプラス募金にご協力ありがとうございました。